

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300350		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホームすずらん・らいらく（すずらん）		
所在地	北海道厚岸郡厚岸町門静1丁目69番地		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300350-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であるという特性から医療との連携が密にとれており、医療と介護の両面で利用者様の生活を支援しています。また、施設内の運動場を利用し、法人内の専門職から指導・助言を受けながら利用者様の身体機能の維持に努めています。
夏祭りや避難訓練時には地域の方にも案内状を配布し参加をいただき地域との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居宅介護支援事業所、デイケア、認知症対応型デイサービス、訪問看護、訪問リハビリ等の福祉事業を営む母体医療法人が運営する中核として、平成15年に開設された木造平屋建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
作業療法士、理学療法士の指導のもと、パワーリハビリ機器を利用して運動機能の維持・向上に取り組み、地域の中で暮らし続けていけるよう支援している。また、往診や法人内の看護師との連携で適切な医療が受けられるよう取り組んでる。楽しみごとや戸外に出かける支援では、季節毎に敬老会や節分、クリスマス会などの開催や屋外で焼き肉やチャンチャン焼き、焼うどんなどの野外食を楽しんだり、厚岸町の夏祭り参加や道の駅(コンキリエ)に出かけての夕食、町内ドライブや事業所主催の夏祭りを開催して、地域の人々や家族等との交流の機会を設けている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)		1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)		1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1 ほぼ全ての利用者が				
		○	2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に理念を掲げ、職員だけではなく利用者様にも目のつく場所に貼っている。職員は常に理念に即した対応を心がけ職員会議の場で定期的に振り返りを行っている。	事業所独自の理念を作り、職員会議や日常業務を通じて職員間でその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の避難訓練や夏祭りの開催時にはチラシや文章を配布し参加の呼びかけをしグループホームへの関心を持っていただけるよう取り組みを行っている。	厚岸町の夏祭り参加や道の駅(コンキリエ)に出かけての外食、町内ドライブや地域のボランティアの協力を得て事業所主催の夏祭りを開催して、地域の人々や家族等との交流の機会を設けている。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行っている行事や運営推進会議に参加していただき実際に関わりを持っていただくことで、理解に繋げていけるよう取り組みを行っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し事業所の現状報告や取り組みを報告するなかでさまざまな意見をいただき、サービスに反映させている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の運営状況や日常生活の様子等の具体的内容を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括定期連絡会議等に積極的に参加することで町担当者と相談しやすい関係があり、運営推進会議にも参加いただいている。また、定期訪問の介護相談員と改善すべき点を話しあえる環境ができている。	町担当者とは、地域包括会議や日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会への参加、また事業所内にも委員会を立ち上げ定期的に会議を持ちミーティング時等に他職員にも伝達している。安全面でベッド柵等必要な際には十分に検討したうえで書面にて家族より了承を得ている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止、接遇等の法人内研修等を通じて指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣などを行う際、利用者様の全身を確認し不審なあざなどないかを見ている。あざ等確認した際には看護師に報告しどのように付いた傷なのかをスタッフ間で考えあうなど行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門知識として学ぶ機会を設け、制度について理解し支援できるように話しあっているが全員に浸透できていないのが現実なので、今後も講習会に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時の説明は、時間を掛け丁寧に理解の確認をしながらおこなっている。また、訪問時や電話での対応においてもいつでも気軽に相談いただける関係作りを心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月定期的に介護相談員の方が来所され利用者の声を聞いてくださる。必要時にはその声を職員に伝えてくださり職員会議で話し合い運営に反映している。	家族や来訪者等が意見や要望等を言い表せるように苦情等の相談窓口、第三者の申し出先を掲示している。また、そこで出された意見等を運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議を職員主体で行い、意見の出しやすい環境をつくっている。意見や提案を確認して即日の会議録提示により必ず全職員が周知できるよう取り組んでいる。	職員会議やモニタリング、日常の業務を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議、法人内学習会で職員の資格取得の推奨・援助、必要に応じ研修会の参加を薦めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の定期的な伝達会、外部の研修に参加し自己研鑽に努めている。研修会の報告を職員会議で行い伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管内の協議会に参加し、情報の共有、必要に応じて実践研修を行い、意欲向上に努めている。改善すべき点については職員個々で話し合いを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点で、必要に応じ訪問、生活状況の情報収集に努め、環境変化による不安軽減に努めている。又、家族の情報を基に本人にとって心地よく住み慣れた環境を提供できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際に、本人・家族より困っている事、悩んでいることを十分に聞き、問題解決に向け共に話し合うよう努め必要であれば入居までに何度も話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを聞き、何を必要としているかを見極め、入居前に他のサービス利用も提案し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊富な利用者様の知識を尊重し、それぞれに得意な事を教えていただき、感謝の気持ちを伝えながら共に楽しんで生活を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや家族の希望を受けながらそのニーズに応じた関係性を保てるよう配慮している。また、問題解決についても連絡を取り合い行っていると共に行事等へ参加していただき楽しみを共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域施設を有効利用し、できる限り本人の要望に添えるよう配慮している。馴染みの理美容院の利用や住み慣れた地域への訪問なども行っている。	地域のお祭り参加や家族との外出支援、近隣散歩や買い物、道の駅での外食などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の主張により利用者様同士のトラブルになりそうな際は職員が仲介に入り、関係性が円滑に回るよう配慮し双方の要望に添うよう援助している。また、職員会議の場で状況の検討、情報共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も行事参加の呼びかけを意識的に行っており関係性の継続を心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活暦の把握や家族、地域との関わりなど本人や家族から聞き取り、意思の尊重に繋げていけるよう努めている。	一人ひとりの希望や意向の把握に努め、職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び、家族や他サービス提供者から生活歴などの情報収集に努め、職員間で共有し本人がよりよい生活を送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の1日の流れは全職員把握しており、その中で日々様子を観察し、心身状態の把握に努めている。出来そうなことを提案し役割に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員と、ケアスタッフが中心となりアセスメントを行いカンファレンスで職員からのさまざまな視点から意見やアイデアを出しながら話し合い、具体的な計画を立てている。家族の意見や思いも反映できるよう来訪時や定期的な電話などで情報収集を行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族からの意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、職員会議やモニタリングを通じて、職員からの意見やアイデアを反映して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って個別ケースに記載し、心身の変化や気づいたこと、ケアの実践・結果を記入し適切な申し送りを心掛けている。また、介護計画の見直しの際にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、送迎、他事業所の行事参加等個々の要望に添った支援を心掛けている。認知症通所介護も行っており、多機能性を活かした支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の野外活動施設を活用した外出や、定期的な図書館の利用等地域施設を有効利用し楽しみを持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療連携があり主治医から毎日往診を受けている。体調変化については都度報告しており適切な指示を受けている。夜間・休日においても連絡体制がとれている。	母体の医療法人との連携で緊急時の対応も含めて適切な医療を受けられるように支援している。また、本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護職員と密に相談できる関係性が出来ており、細かな医療相談を日々行う事で適切な医療を受けられるよう支援している。処置内容は全て記録し職員全員が周知できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活情報の提供を行っている。入院中は職員の見舞いや家族からこまめに状況の確認を行う事で情報共有を行っている。入院環境の変化で認知症状が進行しないよう、状態に応じ入院先の医療従事者と相談できるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階から終末期の対応についてはご家族にお伝えしている。体調に変化あった場合には常に身体状況を報告し、事業所で出来ることを説明し不安のないよう働きかけている。定期的にご家族に対して、主治医との医療相談の機会を設けている。	母体医療法人と連携してターミナルケアが可能な体制が整っている。また、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら職員間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々のリスクについては定期的に確認し、状態に応じ職員間で話しあっている。急変時の対応を経験していない職員もあり、緊急時のマニュアルを用意し周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回(夜間、日中)を想定し消防署員立会いのもと避難訓練を実施し利用者様や地域の方々、ご家族にも参加いただき防災の意識を高めている。安全な避難について訓練の度に参加者と話し合いの機会を持っている。	消防署の協力を得て昼夜を想定した年2回の火災避難訓練を行い、自治会役員や近隣住民、家族等が参加している。また、緊急時の備えに自家発電の設置や緊急時の非常食も備蓄している。	北海道胆振東部地震(ブラックアウト(北海道一円の停電))を踏まえて、災害にあっても可能な限りいつもの生活を提供できる体制を整えるよう、非常時の対応について見直しを検討しているので、その実践に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉使いや態度はスタッフ同士で注意しあい、職員会議の場で継続的に確認をしあうようにしている。	法人内研修を通じて、一人ひとりの尊厳や誇りを損ねないような言葉かけや対応を職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望にあわせて行動し、本人のできる力を見守っている。希望に添うように選択肢を用意し本人の意思を尊重できる環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	業務優先にならず、利用者様本意を念頭におき、職員間の連携を図っている。小さな動きや変化も見逃さないよう観察している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から聞いたり、持参された服を確認して本人の好みの服装等を把握し、スカーフやアクセサリーなどを普段でもお勧めしたり着用の介助を行っている。行き着けの理美容院の継続利用も援助している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理や茶碗拭き、食事の盛り付けなどを職員と共にやっている。個々の特性、状況を理解し利用者様同士のトラブルとならないようそれぞれに役割を持っていただき職員と共に進めている。	管理栄養士監修の元、栄養バランスや摂取カロリー、食事・水分摂取量を把握している。また、一人ひとりの好みや力を活かして食事の準備、後片付け等職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し食べる量や栄養バランスを考えて食事提供している。咀嚼・嚥下の能力によりミキサー食にしている場合や食事意欲に繋がる声掛けをおこなっている。水分補給に難のある利用者様にはゼリー状にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後に口腔ケアの声掛けを行い、本人ができるところまで見守りを行いできないところは介助を行っている。口腔ケアを拒否される方もおられ、毎食の口腔ケアはできてはいない。義歯の洗浄、管理は行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用により排泄のパターンを把握し誘導に繋げている。それにより排泄具の調整も行っている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレへの誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、水分量を把握したうえで、排便サイクルなども理解し個々に対応している。毎日、牛乳や食物繊維のある食事を提供し適度な運動も行っているが排便のないときは看護師に相談し医療的処置を依頼している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	可能な限り本人の希望にあわせて入浴していただけるよう支援している。入浴時仲の良い利用者様同士で一緒に入浴される場合もある。体調不良などで入浴できないときは清潔保持のため清拭を行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて、本人が楽しく安心して入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握した上で、日中の活動や身体状況、心理面などに留意し適度に休息をとっていただけるよう支援している。また、不眠事は温かい飲み物を提供するなどして安眠の促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、薬の変更時は職員全員が周知できるよう業務日誌に記載し連携を図っている。処方箋をファイルし、種類・副作用を確認しやすいようにしている。服薬については、確実に飲み込むまで傍らで見守りしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動(作品作り)を提供し、完成したものを展示するなどして意欲向上、継続できるようにしている。簡単な調理作業や茶碗洗い・洗濯物たたみなど個々に声掛けし一人ひとりの役割と意識していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様から外へ散歩や外気浴の希望があった場合スタッフ同伴で一緒に外へ出られるように対応している。 普段、行けない場所へは行事などを計画し利用者様が楽しめるように配慮している。	季節毎に敬老会や節分などの開催や屋外で焼き肉やチャンチャン焼きなどの野外食を楽しんだり、厚岸町の夏祭り参加や道の駅(コンキリエ)に出かけての夕食、町内ドライブや事業所主催の夏祭りを開催して戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時はお小遣いとしてお預かりしているが、外出の際は必要金額をお渡ししご自身で買い物等への支払が出来るように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話希望があった際はいつでも電話できるよう対応している。ご家族へは毎月写真同封のおたよりを発行し近況をご報告している。おたより内容についてご家族から電話いただくこともありご家族との連携もなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天候や気温により照明や室温調節をしたり、換気を行う等快適な空間を作るように努めている。季節に合わせ装飾を変えたり、季節の花を飾り落ち着ける雰囲気を作っている一方、異食行為や混乱を招かないよう配慮もしている。	利用者にとって、気になる臭いや光の強さ、音の大きさは感じられない。また、共用空間には、季節毎の飾り付けや行事参加の写真の掲示等で生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かにテレビを楽しみたい方とは少し離れた空間にソファや椅子をセットして、歌を歌われたり会話を楽しむ場所を作っている。また、食卓も家事作業や手工芸の時に利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自宅の庭や家族の写真を飾ったり、本人の好みの置物などを飾りつけている。また、家族が持ってこられた造花やぬいぐるみなども本人がよく見える場所に飾っている。	居室には、安全に配慮しながら本人や家族と相談して使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間スペースや食卓を利用し利用者様の安全を確保しつつご本人のやりたいことを気兼ねなくできる空間を提供している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300350		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホームすずらん・らいらく(らいらく)		
所在地	北海道厚岸郡厚岸町門静1丁目69番地		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300350-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の為、毎日医師・看護師の往診がある事で医療との連携がとれており、利用者様の体調管理の体制も確保しております。
また、法人内施設の作業療法士、理学療法士指導のもと、施設内にある運動場でパワーリハビリ機器を利用した、グループホームリハビリを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実績を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間・廊下等、目につく所に掲示し、職員一人一人が、いつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の皆様には、毎年恒例の行事とし、夏祭りのお知らせや避難訓練の参加等行っている。 法人主催の家族報告会等の案内等、参加の呼びかけや、交流を図れるように取り組んでいる。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内で認知症サポーターの研修会を行い、全職員がサポーターとなっている。その事を他事業所の家族報告会や運営推進会議等で伝え、いつでも相談を受け入れるようにしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や保険者だけでなく、地域の方にも参加して頂けるよう行事に合わせる等し、より多くの意見・ご指導を頂けるよう努めている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括会議に出席し、行事等には声掛け行い参加して頂き、相談しやすい関係を築けるよう取り組んでいる。また、介護相談員が毎月来所され利用者様へのかかわり方等意見・ご指導を頂き関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知機能の低下により危険を認識できない利用者様については、家族に現状の報告・説明・話し合いをおこない書面にて承諾を得、臥床時にサイドレールを使用している。現状では玄関に施錠を行っており、入居者様の状況を常に観察し見守りを重視している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修会に参加する事で、職員一人一人の虐待に対する意識を高めると共に、身体拘束委員会を設立し、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人事務長に相談し弁護士等より意見をいただき、対応している。 また研修会の案内等参加するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の説明は時間をかけて丁寧に説明し、確認をしながら理解して頂けるよう行っている。 契約内容の他にも考えられるリスクや必要経費等理解して頂けるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事等、ご家族の来所の際、気軽に意見や要望等を言える雰囲気、環境作りを心がけ、頂いた苦情・ご意見・要望は反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員主体でスタッフ会議を行い、意見を出し合える機会を設けている。 また連絡ファイルを活用することで、意見や情報共有が出来る環境を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学習会や研修会に参加できる環境整備や、各種資格取得への奨励や手当等、職員一人一人が、やりがいをもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、定期的な学習会を開催しており、出来るだけ多くの職員が参加できる環境をつくり、個々のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	協議会の研修会に参加し、伝達講習会やミーティング等で、意見を出し合いサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談等で事前に不安や要望を聞く等、本人に少しでも安心して頂けるよう取り組んでいる。 ご家族と一緒に見学にもきていただく事で、不安なく入居出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意向を把握し、安心して頂けるように十分に話す機会を持ち、ご家族様が必要とする要望をできる限り行えるよう努めている。また、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の意向を把握し、安心してサービスを受けることができるよう、必要としている事を事業所としてできる限りの支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等可能な限り共に行い、今までの人生経験から教えて頂くという尊敬の姿勢で接するようにしている。また、日々の暮らしや行事等、一緒に楽しみ信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日会やホームでの行事に参加を促す等、家族との関係が疎遠とならず、良い関係が継続できるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、知人、友人の面会時には、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。また、馴染みの理容院等、継続して利用できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の出来ること、出来ない事を把握し、その方の力が発揮できるように声掛けを行い、一緒に行うことにより孤立せずに、助け合いや意欲の向上に繋がるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内状の発送を行い、気軽に足を運んで頂き、フォローや相談の支援が行えるよう働きかけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人様の行動、言動、表情を観察し思いや希望を把握するように努めている。又、困難な場合は、家族からの情報や希望を取り入れて、本人の立場になり考えるよう検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族のみでなく知人や、以前利用していた他施設等から幅広く情報を集める事で、本人らしい暮らしを継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その時の心身状態を観察している。また、本人の趣味や特技を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望や家族の思いを理解し取り入れ、月に一度全職員でカンファレンスを行っている。また、身体状況や精神状況が、著しく変化した際は都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、スタッフの意見を取り入れ評価を実施している。全職員が情報を共有できるよう、必要な事は業務日誌に必ず記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスを開始するなど、多機能性を生かした支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の図書館バスを利用し最新の雑誌を見て読まれやり、行事の際には地域の方に慰問に来て頂き楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医医師の訪問を毎朝受けており、関係を密にしている。日曜、祝日についても連絡のとれる体制にあり、看護師も毎日往診に来ている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日(日曜、祝日含む)来所している為、スタッフが些細なことでも気軽に相談できる関係が出来ている。また、看護師と医師とも連携が密に取れる体制が確保されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活情報、既往歴等の情報を提供している。家族、病院共にこまめに連絡を取り合い早期退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意向を大切に、随時確認しながら医師、家族、職員による説明、話し合いをおこなっている。また、急変時には医療関係との連携を図り、状況の変化がある度に医師、職員が都度説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人一人の起こりうるリスクについて確認し、ミーティングで話し合っている。また、緊急時対応マニュアルを作成したり、救命講習を受けることで緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方や利用者で行い、安全に暮らせるよう取り組んでいる。また、近隣の方に緊急時連絡網に登録して頂き、協力をいただいている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し、利用者様を尊重した声掛けや、プライドやプライバシーを損ねない対応をするよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	利用者様が意志決定しやすいよう声掛けや雰囲気作りを心掛けている。意志疎通の難しい方については、表情や態度で気持ちをくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一日の流れは、おおそ決まってはいるが、本人の意志や体調を都度確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容室のサービスを利用している。また、服装身だしなみも本人のこだわりを大切に自ら選択しやすい環境にし、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け等その人その人ができる事を行って頂いている。時には利用者同士一緒に行うことで刺激になり、意欲向上に繋がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を、水分摂取量を毎日必ずチェックし毎月体重測定を行っている。また、栄養バランスは管理栄養士作成の献立を使用し、指導も受けており確保されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い、口腔ケアや義歯洗浄を行っている。夜間は義歯をお預かりし洗浄液につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用して、各利用者様の排泄パターンを全職員が把握し、適切な時間にトイレ誘導を行えるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表と水分摂取表を記入し毎日観察している。リハビリや体操等に参加して頂くよう働きかけや、水分や乳製品の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人の意志を確認してから対応するように努めている。声掛けする際も無理強いせず職員を変えたり、日を改める等で対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理なく出来るだけ日中の活動を促し夜間に良眠出来るよう働きかけている。夜間も安眠できるよう光や音の調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを用意し職員がいつでも内容を確認できるようにしている。誤薬を防ぐため準備とチェックの2重確認を行い、服薬の際は飲み込む所まで必ず確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの興味のあるものを把握し、意欲を引き出し楽しみながら行える事を提供するよう心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や職員の働きかけにより外出や施設周辺の散歩等行っている。その他の要望にも対応できるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人と確認しながら対応するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があれば気兼ねなく行えるよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような壁装飾を行ったり、窓から見える場所に、草花を植え利用者が季節やリラックスできる景色や環境に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを所々に配置し、利用者様同士が寛いだり、自由に過ごして頂けるような空間を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、可能な限り本人の使い慣れたものを持参して頂くようお願いしてもらい、入居後も本人の好む物やご家族の写真等を飾り心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来ること、出来ないこと、状態等を把握し、安全確保と自立への配慮に努めている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん・らいらつく

作成日: 平成 31年 3月 6日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	35	主に火災に対する避難行動、防火対策には訓練もおこなっていたが、他災害に対しての備えが不十分	災害にあっても可能な限りいつもの生活を提供できる体制を整える	考える災害に対してのマニュアル整備と職員に対する周知	1年間
2	42	口腔ケアに応じられない利用者様への対応ができない	最低限、起床時・入床時には口腔ケアに応じていただけるよう声掛けをおこなう	職員自身が正しい口腔ケアについて学び利用者様に対応する	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。